

畠田和一貝類コレクション展 1 畠田和一が発見した新種・新亜種

会期:2019年7月26日(金)~2020
年3月31日(火)

Aegista (Plectotropis) hatakedai Kuroda & Habe, 1951

ハタケダマイマイ (腹足綱: 柄眼目: ナンバンマイマイ科)

阿哲郡石蟹郷 (現・新見市石蟹. タイプ産地)

学名・和名とも畠田和一を記念している。新見市の石灰岩地帯の固有種とされ、環境省・岡山県ともにレッドデータブックで「準絶滅危惧」とされている。



***Aegista fausta* Kuroda & Habe, 1951**

サチマイマイ（腹足綱：柄眼目：ナンバンマイマイ科）

草間村羅生門（現・新見市草間羅生門、タイプ産地）

岡山県や和歌山県などに分布する。この標本のラベルには「昭和 10.8.8. 黒田〔徳米〕氏宛送附せし標本、黒田氏に依ると新種？かとの事にて新鮮なる標本を得たる上にて更に研究を要する由」とある。おそらくこのあと畠田和一は「新鮮なる標本」を再度黒田博士へ送り、同時期にやはり本種を採集していた古屋野寛氏の標本とともに検討されて、新種記載に至った。環境省・岡山県ともにレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅱ類」とされている。



Pictophaedusa hungerfordiana okayamensis Kuroda & Azuma, 1982

オカヤマコギセル（腹足綱：柄眼目：キセルガイ科）

後月郡共和村上嶋（現・井原市上嶋、タイプ産地）

近畿・四国（徳島県）・九州（大分県）などに分布するカスガコギセルの亜種で、岡山県に固有。樹上性で、カスガコギセルはどの産地でも急激な絶滅の危機にあり、環境省・岡山県ともにレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅰ類」とされているが、畠田コレクションには多数の個体が含まれており、当時は多産していたことに驚かされる。現在の学名は *Reinia hungerfordiana okayamensis* (Kuroda & Azuma, 1982)。



Parasitala (?) *okayamaensis* Kuroda, MS. (1950)

オカヤマシタラ（腹足綱：柄眼目：シタラ科）

阿哲郡豊永村槇ノ穴（現・新見市豊永赤馬満奇洞）

黒田徳米博士が雑誌『夢蛤』上で畠田和一採集の「備中上房郡上水田村井殿 鍾乳洞」産の標本をもとに新種記載した。しかし『夢蛤』は手書き原稿を複写した雑誌であるため、国際動物命名規約第9条によって不適格と見なされ、本種の学名もいまだ正式なものでない。



Sphenia coreanica Habe, 1951

イジケガイ（二枚貝綱：オオノガイ目：オオノガイ科）

朝鮮蔚山（現・大韓民国ウルサン広域市、タイプ産地）

畠田和一が発見した新種のうち、唯一の海産種。福島県～九州の太平洋岸と、朝鮮半島南岸までの日本海に分布し、潮間帯～潮下帯の岩礁にすむ二枚貝類。

「イジケガイ」の和名は殻がねじれていることと、褐藻類の根に潜り込む生態を「ひきこもり」と見なしたことによる。波部忠重博士が新種として記載したが、ここに展示した標本には「模式的標本」「珍要保存」「4個ノ内2個波部」と畠田和一直筆で書かれ、当初4個体あったうちの2個体を波部博士に提供し、それらがタイプ標本となったことがわかる。



（岡山大学 福田宏）